

高山の松葉さん 特別デザイン賞



伝統を尊重しながら畳の新たな可能性を模索する松葉清幸さん＝高山市森下町の松葉製畳で

カラフルな畳を不規則に敷く発想力や技術を競うコンクール「モダン乱敷き畳アワード」で、松葉製畳（高山市森下町）の畳職人、松葉清幸さん（46）が「特別デザイン賞」を受賞した。松葉さんは「畳の良さを知ってもらうきっかけになればいいと思う」と力を込める。

（戎野文菜）

モダン乱敷き畳アワード

ピンクや青、茶色など畳の色は百種類近く、縦じま

や市松模様のももある。モダン乱敷き畳は、大きさ

の異なる多種多様な畳を組み合わせ、個性的な空間を演出する。コンクールは毎年開かれ、五回目。全国の畳職人が手掛けた百四十四点の応募があり、写真など

をもとに審査された。

松葉さんは、高山市内の飲食店内で施工したキッズスペースを応募。茶色とベ

ーージュの市松模様の畳を組み合わせ、へりにはかわいらしいイヌの足跡の模様も付けた。「子どもたちが楽しい雰囲気を感じられる空間を意識した。ただ奇抜な

だけのデザインにならないよう、伝統的な規則性も残している」と話す。

五十年以上続く松葉製畳の二代目。サラリーマンとして働いた後、家業を継いで二十三年になる。モダン乱敷き畳に取り組み始めたのは、三年ほど前。畳について「家具やカーテンに合

独自性で若い世代にもPR

わせにくい」「個性がない」といった意見を聞いたのがきっかけだった。

今回の受賞に「びっくりした。若手からベテランまで、全国の職人が応募するコンクールなので光栄」と笑みをこぼした。八日に東京都内で表彰式があり、主催する「モダン乱敷き畳の輪」の石川敬会長から表彰状を受け取った。

「畳はクッション性があり、赤ちゃんがはいはいするのにもいい。デザイン性や独自性を高めることで、若い子育て世代にもPRしたい」と今後への意気込みを語った。



松葉さんが手掛けたモダン乱敷き畳のキッズスペース